

日付 2026.9.3
作品 ロボットドリームズ
担当 しののめ

採点

	好き	作品	脚本
雨森	5	4	3
米俵	3	4	3
太郎	4	4	3
さいの	4	4	3
しののめ	4	4	3
山極	3	4	3
イルカ	4	4	3
平均	3.9	4.0	3.0

- 参加者感想/コメント ※分析会前/最中に誰でも自由記入
- ・ACT3だけが好きだった。音楽の使い方がいいと思った。
 - ・カタリストはロボット到着、もしくはロボット完成で良いのでは？
 - ・二幕が面白くない。二幕なくて良いレベル。
 - ・ロボットである意味は？敢えて？ドッグが軽薄なのもわざとっぽい？

P P 1				M P			P P 2		
	分	%	内容	分	%	内容	分	%	内容
雨森	27	28%	ロボット不在、孤独の解消開始	52	54%	DOG一人寝、孤独を改めて感じる	75	77%	ロボットも喪失、再度孤独になる
米俵	27	28%	DOG とROBOT 別々の生活開始	52	54%	DOG 孤独に寝ている	75	77%	DOG とROBOT の再会が不可能になる
太郎	27	28%	ROBOTとの別れが確定	53	55%	夢の中、雪だるまの顔がROBOTに変わる	77	79%	ビーチでROBOT発見できない。
さいの		0%	ロボと別れる		0%	DUCKと友人になる		0%	ビーチに行くも、ロボおらず
しののめ	27	28%	別々の生活開始	52	54%	雪だるまの顔がロボットになる	75	77%	ビーチでロボットと再会できず
山極	27	28%	ドッグとロボの別々の生活開始	52	54%	夢終わり、ひとりで寝ていた	75	77%	ビーチに行くが、ロボットに会えず帰る

ライターズルームの統一見解

	分	%	内容	イルカ書き方例
P P 1	27	28%	ドッグとロボットで別々の生活をスタート	冷蔵庫にメモを貼り付ける（別々の生活スタート）
MP	52	54%	雪だるまの顔がロボットになり、ドッグが孤独に寝ている	↑シーンの描写として文章にすると読む人がわかりやすい。P P 1 のスタート感も大事なので（）書きで残す。
P P 2	75	77%	ビーチでロボットと再会できずに帰る	

担当者コメント ※分析会後に担当者が記入

PP1、PP2は分かりやすい今作だが、MPについては当初見解が割れた。ドッグとダックが友達になるシーンをMPと取る意見も多かった。しかし、MP前半の流れや演出を踏まえ、寂しさを募らせてピークに達する52分頃（雪だるまの顔がロボットに変わり、ドッグが孤独に寝ているシーン）がMPで良いのではという統一見解に落ち着いた。

上記の分析表では、ビーチにてロボットが動けなくなるシーンをカタリストとしているが、遅すぎるのではという指摘もあった。ロボットが到着するシーン、あるいはロボットが完成し動き出すシーンがカタリストでも良いのではという意見だ。カタリストは「PP1以降の本筋に繋がる、本当に小さな最初のきっかけで良い」という話も出たので、ロボットの登場シーンをカタリストとして取った方がより自然だったかもしれない。イルカ先生によると、「カタリストが2つあるように見える構成であるため、どちらで取っても間違いではない」とのこと。また一般論として、原則1つであるはずのビートが2つあるように見える場合、もしかすると構成に何か問題があるのかもしれない、という見方もできるとのこと。

またルーム内では、二幕があまり盛り上がりすぎず面白くない、二幕はなくても良いレベル、もっと大きな事件を起こしてほしいといった意見が出た。個人的にはヒューマンドラマとしての自然さや丁寧さにばかり意識が向いていたが、一理あると感じた。イルカ先生からは、PP1～MPまでの孤独感の積み上げ方が単調で、似たシーンの繰り返しになっているというご指摘。どんどん孤独感が深まるような流れが描ければ、MPでドッグに涙を流させることもでき得るし、ラストでより深く感動させられたのでは、というお話だった。全体的に感情の波の起伏が緩いとのこと。非常に納得感があり、二幕があまり面白くないと言われてしまう原因でもあると感じた。案の定、「ドッグがもう少しロボット救出のために何かできたのでは、と思わせてしまう余地がある」というご指摘も出た。

その他イルカ先生からは、「アニメなので表情の描写などがやや露骨ではあるものの、長編サイレント作品ながらきちんと分かりやすく作られている。シーンの繋ぎ方も上手く、何が起きているか明確」、「音楽や文字情報の使い方も上手い」といったお話があった。やはりサイレントアニメーションとして、学べる部分も多々あると感じた。